

【授業科目】生理機能検査学特論 Advanced Clinical Physiology

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
榎本 喜彦	4年次後期	選択	1	15	講義	あり	卷末掲載	可
授業概要 (内容と進め方)及び課題に対するフィードバック方法	<p>生理機能検査学Ⅰ、Ⅱの学習内容及び実習内容について総括的な講義を行う。特に、臨床現場で必要な重要ポイントを学習／復習させる。そのため、症例や検査データから疾患を導き出すアウトプット重視の学習を行わせる。実際の症例からどのような検査が必要かを考え、所見及び検査結果（心電図、心音図、脈波、呼吸波形や、ガス希釈法、酸素飽和度など）から考えられることや経時変化、治療効果を検討し、臨床検査技師としてなすべきことを考えさせ、学びを深めさせる。これにより臨床検査だけでなく、医療に対する知識と応用力を身につけさせるとともに、国家試験にも対応する力をつけさせる。生理機能検査学特論では、新しい検査法や臨床検査技師の業務の見直しなども併せて講義する。</p> <p>課題に対するフィードバック方法／提出された課題やテストに対しての総評コメントを掲示にて公開する。</p>							
実務経験に関する授業内容	臨床検査技師として臨床経験を持つ教員が、生理機能検査の測定法、原理、および生理機能検査に関わる臓器の構造や機能を、臨床で培った経験を基にして講義を行う。							
授業の位置づけ	本学のディプロマポリシー⑤「将来に向け臨床検査を主体的に学び、臨床検査の専門職としてのキャリアを伸ばせる能力を持つことができる。」の達成に寄与している。							
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	<p>①それぞれの生理機能検査の測定法、原理について説明できる。</p> <p>②それぞれの生理機能検査に関わる臓器の構造と機能について説明できる。</p> <p>③生理機能検査が必要な疾患について病態の説明ができる。</p> <p>④病態における生理機能検査の結果について説明できる。</p>							
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	<p>生理機能検査学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ及び、生理機能検査学実習Ⅰ、Ⅱを振り返り（毎回30分）、不明な点を明らかにしてから講義に望むこと。</p> <p>※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（2単位15回科目の場合：予習+復習4時間／1回）（1単位15回科目の場合：予習+復習1時間／1回）（1単位8回科目の場合：予習+復習4時間／1回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p>							
授業計画	<p>第1回 心電図の検査法と症例について</p> <p>第2回 心電図検査の症例と他の検査法との関わりについて</p> <p>第3回 心音図、脈波など心血管系の検査法と症例について</p> <p>第4回 肺機能検査と症例について</p> <p>第5回 血液ガス・酸塩基平衡検査と症例について</p> <p>第6回 脳波検査と症例について</p> <p>第7回 脳波検査、脳幹電位と症例について</p> <p>第8回 筋電図・神経電位検査と症例について</p>						全て榎本	
評価方法 評価基準	成績は以下の評点配分によって総合的に判断する。 学期末試験 100% 授業態度も加味する							
教科書	最新臨床検査学講座 生理機能検査学 東條尚子・川良徳弘著（医歯薬出版株式会社）			参考書等		医学領域における臨床検査学入門 (KTC 出版)		
学生へのメッセージ	総括となる科目である。これまでの講義の復習をしてから望む事。							